

国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議
(英文) Asian-Pacific Regional IAU Meeting 2023 (略称: APRIM2023)
- (2) 報告者 : APRIM2023 組織委員会委員長 渡部 潤一
- (3) 主催 : APRIM2023 組織委員会、公立大学法人会津大学、日本学術会議
- (4) 開催期間 : 令和5年8月7日(月)～8月12日(土)
- (5) 開催場所 : ビッグパレットふくしま(福島県郡山市)
- (6) 参加状況 : 39カ国・地域 474人(国外270人、国内204人)

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯 :
APRIMは国際天文学連合(IAU)が主催する地域会議のひとつで、1978年にニュージーランドにて第1回会議で開催して以降、3年おきにアジア太平洋地域の国々を巡回しつつその回を重ね、日本は1984年(京都)と2002年(東京)の招致実績があるが、当会議が21年ぶり3回目の日本開催となった。
- (2) 会議開催の意義・成果 :
日本の天文学・宇宙物理学・惑星科学は、ハワイにある大型光学赤外線望遠鏡すばるや、欧米と共同で運用してきたチリの電波望遠鏡アルマ、はやぶさ2に代表される惑星探査などでめざましい発展を遂げてきた。その意味で、日本の天文学・宇宙物理学・惑星科学研究の進展と成果を世界に示す機会となった。さらにこの会議では、地域を代表する研究者の人的交流を通して、最新の知見や情報を交換し、世界的な研究者連携ネットワークを発展させる機会となった。
- (3) 当会議における主な議題(テーマ) :
アジア太平洋地域における天文学関連分野全般を対象に、以下のセッションで議論した。
 - S1: Planets In and Outside of the Solar System
 - S2: Physics and Evolution of the Sun and the Stars
 - S3: From ISM to the Stellar and Planetary Systems
 - S4: Compact Objects and High Energy Astrophysics
 - S5: Galaxy, Galaxies and their Beginnings
 - S6: Multi-messenger Astronomy
 - S7: Telescopes and Detector Projects On and Out Of the Grounds
 - S8: Networking the Public Outreach, Development and Sustainability
 - S9: Astroinformatics in Big Data Era
 - S10: Topics covering multiple fields or new field

- (4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割：
予定されていた APRIM2020 がコロナ禍でキャンセルとなった後、シリーズの再スタートとしてハイブリット形式を採用したが、現地参加のための旅費支援申請者が申し込み締め切り時点の参加者の4割に達した。このため、IAU からだけでなく、スポンサーや寄附を原資として組織委員会独自に若手を中心に参加補助を行い、対面での発表、議論、交流を実現した。
- (5) 次回会議への動き：
本会議中に開催した科学組織委員会（SOC）会議において、次回開催地として香港を IAU 執行委員会に推薦することを決定し、2024 年 4 月に開催地が決定された。
- (6) 当会議開催中の模様：
オンライン参加を含めて 39 の国と地域から 474 名の参加者があり、5 つのプレナリートーク、10 のセッションおよびサブセッション全体で 235 件の口頭発表、149 件のポスター発表があった。口頭発表のうち、174 件は現地でのオンサイト発表で、オンラインの発表は 61 件だったが、大きなトラブルもなく、研究成果の共有と議論ができた。ランチタイムには「Women in Astronomy」が開催された。
- (7) その他特筆すべき事項：
日本での APRIM の開催は 2002 年以降なかったこともあり、最新成果について共有する国際会議を日本で開催すべきであるという声も高まり、東日本大震災からの復興支援の観点等から開催地を福島県とすることを決め、APRIM2020 で次回の開催地に立候補をすることを決定した。APRIM2020 はコロナ禍でキャンセルされたため、2021 年 4 月に開かれた SOC メンバー（16 カ国 22 名）によるコンペティションにて、他の候補地を抑え日本（福島県郡山市）招致を勝ち取り、続く IAU 執行委員会で承認され、日本での開催が決定された。

3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：8 月 12 日（土）13:00～15:30
- (2) 開催場所：郡山市ふれあい科学館（福島県郡山市）
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：「神岡の地下から探る宇宙の謎」、「私たちはどこから来たのか」
- (4) 参加者数、参加者の構成：
小学生から一般まで幅広い年代で、オンライン同時視聴を含めて 600 名以上が参加した。
- (5) 開催の意義：
最新の研究成果を分かりやすく紹介することで、開催国・地域における天文学の普及・学術成果の還元を図る。
- (6) 社会に対する還元効果とその成果：
小中学生の参加や、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校からのグループ参加など若年層への関心を喚起でき、オンライン配信及びアーカイブ配信を行うことでより多くの人にアプローチした。また、市民公開講座に関する新聞報道は 8 件であった。

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

開会式では秋篠宮皇嗣妃殿下に御臨席いただくとともに、内閣府特命担当大臣、福島県知事、郡山市長などの御来賓があり、天文学関係の国際会議としては 1997 年 IAU 京都総会以来の盛大なものとなった。また、御臨席の後、会津若松市へお成り頂き、江戸時代に建設され、日本天文遺産にも認定された「会津藩校日新館天文台跡」をご視察頂く機会を得ることが出来た。

日本学術会議天文学・宇宙物理学分科会 IAU 分科会が IAU の日本窓口になっていることもあり、通例地域会議には参加されない IAU 会長の参加の機会を得ることが出来た。また、500 名の天文学者があつまる APRIM の会場としてビッグパレットふくしまは完璧だったと講評頂いた。

市民公開講座にて梶田隆章日本学術会議会長に御登壇頂き、国内外への良いアピールとなった。



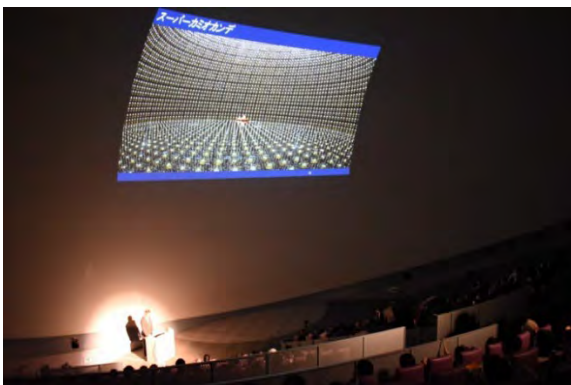
基調講演後に撮影した集合写真



活発な議論がいきかうポスターセッション



開会式にておことばを述べる秋篠宮皇嗣妃殿下



市民公開講座に登壇した梶田日本学術会議会長